

授業科目名	フィジカルアセスメント特論 <i>Advanced Studies in Physical Assessment</i>			担当教員	清村 紀子
開講年次	1年前期	セメスター	1	時間数(単位数)	30 (2)
必修選択	選択 (CNSコース必修)	授業形態	講義	使用教室	
授業の目的	多様な健康問題を持つ対象の身体状況の診査や診査に基づく臨床判断をするための知識及び技術を修得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. フィジカルアセスメントの目的・意義・構成要素を理解できる。 2. フィジカルイグザミネーションの基本技術（問診・視診・触診・打診・聴診）が実践できる。 3. 全身のスクリーニングが実践できる。 4. システムレビューが実践できる。 5. 高度実践看護師として、より高度なフィジカルアセスメントが実践できる。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1回：イントロダクション <ul style="list-style-type: none"> ・フィジカルアセスメントの目的・意義 ・フィジカルアセスメントの構成要素 2回：フィジカルイグザミネーションの基本技術と全身のスクリーニング <ul style="list-style-type: none"> ・問診・視診・触診・打診・聴診、全身の概観 3回：システムレビュー（呼吸機能） <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸機能の概観 ・問診・視診・触診・打診・聴診 ・血液ガス分析・呼吸機能検査結果の読解 ・呼吸機能検査のデータの読解 4回：システムレビュー（循環機能） <ul style="list-style-type: none"> ・循環機能の概観 ・問診・視診・触診・打診・聴診 ・スクラッチテスト ・中心静脈圧の推定 ・末梢循環の確認 ・心電図の読解 5回：システムレビュー（脳・運動機能①） 6回：システムレビュー（脳・運動機能②） <ul style="list-style-type: none"> ・意識レベル ・感覚機能（視覚、聴覚、味覚、嗅覚、痛覚・温度覚、触覚・振動覚・関節運動覚・関節位置覚、二点識別覚・立体覚・書字感覚・温度覚） ・脳神経（第Ⅰ～第Ⅻ脳神経） ・高次脳機能 ・小脳機能 ・運動調節機能（含：麻痺、筋トーンズ） ・反射（生理的反射と病的反射） 7回：システムレビュー（摂食・嚥下機能） <ul style="list-style-type: none"> ・摂食・嚥下機能の概観 ・嚥下スクリーニング検査 8回：システムレビュー（栄養吸収・代謝調節機能） <ul style="list-style-type: none"> ・栄養吸収・代謝機能の概観 ・消化管・肝臓疾患に関する問診 ・腹部の視診・触診・打診・聴診 ・栄養評価 				

<p>授業計画</p>	<p>9回：システムレビュー（排泄機能） <ul style="list-style-type: none"> ・問診・視診・触診・聴診 ・排尿・排便機能とその異常 10回：システムレビュー（内分泌・内部環境調節機能） <ul style="list-style-type: none"> ・問診・視診・触診・聴診 ・体液バランス、電解質バランス ・腎機能・内分泌機能検査の読み方・負荷試験 11回：システムレビュー（生体防御機能） <ul style="list-style-type: none"> ・皮膚、免疫・リンパ系に関する問診・視診・触診 ・免疫・アレルギー・膠原病のアセスメント 12回：システムレビュー（生殖機能） <ul style="list-style-type: none"> ・乳房・生殖器に関する問診・視診・触診 ・生殖機能障害のアセスメント 13回：シナリオ演習（1） <ul style="list-style-type: none"> ・入院 14回：シナリオ演習（2） <ul style="list-style-type: none"> ・外来 15回：シナリオ演習（3） <ul style="list-style-type: none"> ・在宅 </p>
<p>学習方法</p>	<p>講義を通して患者の身体を機能別にシステムレビューする意味と方法を理解する。シナリオ演習では、各システムを複合的にアセスメントできるように学習する。</p>
<p>オフィス ア ワ ー</p>	<p>kmnoriko@oita-u.ac.jp（清村 紀子）までアポイントをとってください</p>
<p>テキスト</p>	<p>清村紀子他編：根拠と急変からみたフィジカルアセスメント。東京，医学書院，2014。 清村紀子他編：機能障害からみたからだのメカニズム。東京，医学書院，2014。</p>
<p>参考文献</p>	<p>福井次矢他監修：ベイツ診察法 第2版。東京，メディカル・サイエンス・インターナショナル，2015。 Jill, Fuller., et al. : Health Assessment a nursing approach 3rd edition. Lippincott, 2000. 日野原重明他編：フィジカルアセスメントーナースに必要な診断の知識と技術。東京，医学書院，2006。</p>
<p>評価方法</p>	<p>授業参加度（30%）、レポート（70%）</p>